

# 第1回 魚津市総合戦略推進委員会 会議録

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ

ようやく暖かくなった。本日は本市のまちひとしごと地方版総合戦略推進委員会にお集り頂き感謝している。また日頃から皆さんの市政への協力に感謝している。昨年11月に地方創成関連法案のまちひとしごと創成法案と、地域再生法の一部を改正する法律案が成立しており、地域の特性を活かした本市の人口ビジョンと地方版総合戦略を策定するというので皆さんに集まって頂いている。これを前提として、本市が抱える諸問題等について、活発なご意見、ご議論をおねがいしたい。

本市においても、全国の市町村同様、多くの地方自治体が抱える少子高齢化が進行しており、総合計画を柱とした施策を実施することで課題に取り組んでいるところであるが、今回改めて人口減少問題の解決に重きをおいた計画をつくるということで、今後この後議論頂く内容は、産学官金連携をし、各方面の皆さんの意見を集約し、本市の施策の充実と推進に向けた計画づくりをしていく所存である。

本市においては10年来、少子高齢化社会を迎える予測をたてており、地域の課題を地域で話し合い、それを組織として行政と協働していく事ができる仕組みにするため、本市の13地区にそれぞれ地域振興会を本年度立ち上げたところである。委員の皆様には是非これらの取組等についてもご検討頂き、意見を市政に反映したいと考えている。委嘱期間は長い为宜しく願います。

## 4 出席委員紹介

## 5 市側出席者紹介

## 6 会長選出

(事務局)

どなたか本委員会の会長へ推薦お願いしたい。

《推薦なし》

推薦なければ、事務局からお願いしている富山大学の秦先生にお願いしたいと思いますがいかがか。

《一同 異議なし》

では、秦先生に会長をお願いしたいと思う。

(会長) あいさつ

(事務局)

ここからは会長に進行をお任せする。

7

(会長)

では議題(1) まち・ひと・しごと創生について、事務局より説明をお願いします。

《資料1に基づいて事務局説明》

(会長)

事務局より色々説明があったが、今後どうすれば人口が増え、または維持されるのか、皆様のご意見を頂戴したい。本市の人口の理想はこれくらいを見越して、そのためにはこのような施策が必要ではないか等、気楽にご意見ををお願いします。

(A委員)

先日、日本創成会議の増田先生のシンポジウムに参加した。そこで全国の896の自治体が将来消滅する可能性があるという話を聞いた。なぜかという、その時の20歳代から30歳代の若年層の女性の数が現在と比べ圧倒的に減少していくため、人口の減少は避けられないとの見解だった。本市での少子高齢化を食い止めるために、調査したい実態として、20歳代から30歳代の女性の意見だと思う。

個人的に意見だが、北欧では少子化は進みつつも、出生率が上がっていて、ある程度の時期には人口減少に歯止めがかかる程度まで改善している前例もあるようだ。

また、北欧では1人あたりのGDPが高いため、住民の幸福度が高い傾向があるそうだ。本市における考え方のひとつとして、人口減少イコール悪ではなく、前向きに人口減少を捉え考えていく必要があるのかなと思う。

(会長)

資料にもあったが、本市の人口構成の中で、特に女性の年齢別人口構成が見てみたい。現在本市はどのような年齢の人で構成されているのかが知りたいと思う。また、その人たちはどのような仕事をしているのか等の実態が知りたい。

(B委員)

2040年の人口推計があるが、どのような計算根拠なのか。

(事務局)

国立社会保障 人口問題研究所が算出した推計である。人口の流入・流出の割合と、出生率の推計を掛け合わせて算出しており、ただ単にトレンドを伸ばして計算しているのではない。

(B委員)

私は、人口推計の資料内容に違和感を覚える。資料では今後2060年までずっと本市の総人口は減少を続ける予測となっているが、ここ数年来、出生数は増えている中で、団塊の世代が高齢化し、亡くなられる人数に、出生数が追いつかないために減っているのであって、どうして人口の推計は右肩下がりになる一方なのか。いつか、出生数が死亡数を上回るタイミングがくれば、人口減少に歯止めがかかる推計にはならないのか。そのあたりを緻密に計算していくと、例えば3万人とか3万5千人とか、損益分岐点ではないが、その人数を見いだした上で、本市が幸せに暮らしていけるという考えはひとつあるのではないか。ただ、「人を増やせ」といっても、日本の人口は決まっていて、こちらに流入があればどこかは流出する訳で、しっかりした数字を捉え、将来展望していくのはどうか。

(事務局)

ご意見のとおりだと思う。流入・流出のみを争っても国の中での取り合いになるだけで発展性がない。どこかで落ち着くところはあるかと思う。国の発表している人口推計においても、推計の仮定で高位中位低位3パターン程の算出値もある。国全体の出生率が1.43で、頑張ればもう少し上にいける可能性もある、など動きがあるようだ。

次回の会議では、本市における数パターンの仮定に基づいた人口推計をご提示させて頂きたいと考えている。

(会長)

今のご意見は2つあって、1つは日本の人口が減りつづけるが、本市ではどこかで最適な人口があるのではないかということ。いつまでも減少が続く訳ではないのでは、と仮定すると、本市の中で、自治体が維持し、良質な暮らしを続けるために、住民人口はおよそ何人くらいいけば快適に過ごすことができるのか、最適と思われる人口の目安を見つけるのがとても重要である。

また、あまり悲観しすぎるのもいかがかという意見である。先ほどの北欧を参考にした意見もとても良いと感じる。他にご意見をどうぞ。

(C委員)

今回のまち・ひと・しごと創生も、KPIという「数値目標」等のデータだけで物事を判断するだけでは良くないと感じる。新規雇用人数が〇〇人増えたら「良し」とする、などの設定は、国全体の目指す方向性として、そのような数値を指標とするのは良いと思うが、魚津市のような規模の自治体では、働き方をどうするか、まちづくり・まちおこしをどうするか等、ハード面よりもソフト面に目を向けるほうが大事だと思う。目標数値を設定し、それを達成することで生活が良くなっていく、という発想そのものがいかかかと思う。それよりも、住民の需要や解決したい課題は個人個人で違うはずなので、たとえばワークライフバランス等がとれるようなソフト面

での改善を図っていく等を重要視してはどうか。また、本市だけで物事を考えていくのではなく、広域圏で施策を考えることも検討してほしい。せっかくの機会なので、本市ならではの、の施策を話し合い、作り上げて行く良い機会になると思う。

(会長)

今のお話は資料に基づく6ページあたりの内容だと思う。エゴイズムではどうにもならない、地域の特性を活かし、周辺を見渡して、もっとソフトウェアについて大事にしていこう、という視点の良い意見である。どうしても数値目標で物事を進めてしまう、判断される、という前例は少なくない。ただ、数値目標を決めてそれに向っていきましょう、ではなく、数値目標を定めるのであれば、なぜその数値なのか等の言葉で根拠をしっかりと示していくことが重要であり、それができれば良い計画になると思う。他に意見どうぞ。

(D委員)

国全体では西暦30年後に1億人の人口維持を目指している。では、本市では「〇〇人を目指します」を掲げることが重要だと思う。私としては数値目標を建て、それに向って進むというのは重要だと思う反面、一人ひとりの幸せについて目を向けていくのがとても大切であると思う。同世代の友人と話すと、人によって価値観や幸せについての考え方はまったく異なると感じる。自分が良いと思っていることも、友人と話すとそこまで良いと考えていないことも多々見られる。住んでいる地域に対しての考え方についても同じことが言える。

今回の計画策定においても、マクロ的に本市の状況を勘案して、内容をつくっていくのは大切であるが、ミクロの面も考慮し、様々な課題を抱える住民への配慮がなされた計画であることが必要だと思う。例えば、子どもができない夫婦に対し「なぜ子どもができないのか」という目線を周囲が送る事で、その夫婦が息苦しく思うような環境は問題だと思う。そのような様々な課題や課題を抱えている人が共存していて、その人たちへの配慮が行き届いた計画を作る事が、策定を進めていく上で重要であると考えている。

(会長)

そのとおりだと思う。ただ、根源的なところは大切だが、そのような人たちを大切にするというのは大変重要である。そのような課題を抱える人たちへの配慮は重要であり、とても大切な意見である。それらの配慮をバランス良くした点を議論する中で見つけていこう。

(E委員)

良いアイデアとしては「子どもを増やす」ということだと思うが、現実を見ると、3人目の子どもを育てることが、経済的にとても難しくハードルが高い。市ではそのあたりの施策を何か実施しているのか。次に、故郷で仕事をしたい人や、将来親の介護をするためにUターンを考えている人は一定程度存在すると思う。そのような人に対しても市で仕事の紹介や、仲介などが充実していれば、都会に出ている人も帰ってきやすいのではないかと感じているが、市の施策として何か実施しているのか。

(事務局)

D委員のご意見に対しては、そのように感じる。会長が言うように大筋は外さずにいかなければならないが、もちろん多様性に配慮しながら大筋に向かっていくべきであると思う。

E委員の子育て支援についてのご意見については、第3子の保育料減免措置や、中学生までの医療費無料等を実施している。しかしこれは本市独自の施策というよりも、他市町村も似たような内容を実施していることが多いため、さらにもう一步本市独自の支援内容が必要であると考えているところである。

定住促進についての施策も同じく実施しており、空き家バンクなどのサイト上で閲覧するホームページも新たに作られたので一度見てほしい。今後は内容を充実させ、Uターン希望者や東京から移住したいという人たちに、本市へ移住したら「魅力的だ」と感じてもらうような情報発信をする必要があると感じている。内容充実のためには、委員の皆さんのご意見を多くいただき、それも参考にさせて頂きながらコンテンツの充実をしていきたいと考えているのでご意見よろしくお願ひしたい。

(会長)

具体的には次回以降の委員会にて、事務局からも施策提案等がでてくるので、改めて検討することになると思うが、まだご意見頂いていないF委員にご意見お願ひしたい。

(F委員)

いつも女性の会は市政懇談会を開催しており、数年来「空き家問題」を何かしら解決にむけた動きが必要であるという意見を提出している。本市には山・海が接近した地域であり、その地域の特性を活かし、これまでのインフラを山奥まで整備して人口を増やしていったやり方とは違う方法ではなくしてほしい。現在は中心市街地においても空き家が目立って増えているため、会長が仰った「幸せに暮らせるまち」には程遠い状況であると思う。空き家の対策を官民一体となり、市営住宅とまではいかないまでも、定住促進の取組を実施する中で、何とかそのような空き家を低家賃で、屋内をリフォームした状態で、移住希望者や若年層に貸し出せるような制度ができれば良いと思う。

(事務局)

大きな意味での住宅対策についても、「空き家」についての取組は重要なキーワードとして捉えており、本委員会においても空き家の利活用について対策を考えていきたい。

(会長)

空き家は全国的に重要な解決すべき課題となっており、おそらくそのあたりの対策提案は次回以降、事務局からも提案があると考えている。

(G委員)

私事で恐縮だが、先日首都圏の高齢者さんと知り合いになった。その人は年金受給が約20万円、貯金と言える金額はほぼなく、家賃20万円の首都圏には、他に労働等による収入がない身ではとても住み続けることはできない、という現状を話してくれた。それなら一度魚津市を暮らしの場として考えてほしい、と本市に招き、もてなした。その人は本市への移住を前向きに考えてくれるとの事だった。

仕事の有無については、富山県は全国的にも有効求人倍率等ではトップクラスであり、ハローワークで内容を見てもとても仕事が多い。人の流れについても新幹線の開通により都会からのアクセスが良くなって流入人口も増えると予想される。子育て支援についても充実しており、まちづくり関係についても充実している。様々な面で本市は充実しているが、私が言いたいのは本市に住むのは魅力的である、という事をしっかりとアウトプットできているのか、という点である。今ある恵まれた住環境をさらに充実させていくのも大切だが、もっと大切なのは本市での暮らしやすさについての情報発信を、今後どれだけ上手に進めていくのがポイントになるのではないだろうか。

(事務局)

ご指摘どおり、本市の有効求人倍率は高く、待機児童もいない。就業している人の所得も全国的に見ても高いほうである。ある統計において、本市は全国で住みやすいまち15位という結果もでていいる。しかし、本市に住みたい・暮らしたくなるための何か決定打があれば、と個人的には思う。本市で住みたい、働きたい、暮らしたいと思われるような情報発信も重要な施策内容のひとつである。

(会長)

私も富山県在住が30年になるが、とても住みやすく、環境も素晴らしいと思う。せっかく良い土地なので、誰でもとにかく「人」を呼び込んでいくという方向性ではなく、「良い人」をたくさん呼び込むことが大切であると思う。皆で知恵を出し合おう。情報発信力も必要である反面、移住促進した結果、本来持っている本市の良さを崩してはならないと思うので、そのあたりのバランスは難しいところではある。

(H委員)

一番下の子が中学3年生で子育て最中である。本市は住みやすいところだが、これまでも話しがでているように魅力の発信力が足りないと感じる。本市は蛇口をひねればおいしい水が飲めるし、災害は少なく、とても住みやすい。人口を増やすための方法についてだが、若い女性で不妊治療に取り組む人が多いと聞いているので、それらの支援をさらに手厚く行政のバックアップがあると良い、と思うのがひとつである。また、市内に産婦人科がないため、それがいざ子育てするために、産婦人科が市内にあるかないかで言うと、やはりあったほうが良いと思う。

(会長)

産婦人科の医師は、全国的にも減っていると聞いている。議論はつかないが、議題（１）についてはこのあたりで、議題（２）にいきたい。では事務局より説明をお願いします。

#### 議題（２）策定スケジュールについて

《資料２に基づき、事務局説明》

（I委員）

次回策定委員会の日程は、決まり次第早めに知らせてほしい。調整をしたい。

（事務局）できるだけ早く日程を決め、周知したい。

（I委員）

本委員会ではどの程度細かい議論を求められているのかが見えない部分がある。例えば人口問題を考える際に、転出する人に対し、「なぜ転出するのか」という声を拾い、理由を探るところまでやるのか等を分析していくことや、不妊治療が今後も増えていくように思うので、そのあたりの実態について行政はデータを持っているのか、または昔のような仲人のような人と人を結びつける役目の人が地域にいたが、今は婚活等、仕組みや方法が変わってきている。それら多岐に渡る課題をどの程度まで掘り下げていくのか。また、本市では目標人口として例えば4万人を維持する、などの具体的目標があるのかないのか。そのあたりのイメージが本会ではできなかった。

（事務局）

今回は概論だけだったが、次回からはもっと細かいところまで踏み込んでいくことになる。

（会長）

今のご指摘は同じ意見である。我々はどこまで議論をしていくのか。スケジュールをみると限られた会議の回数で時間も制限があるため、細かすぎるところまでは陥らないようにしたい。ある程度事務局で準備した内容について、ご意見を頂くという事になるかと思う。

（D委員）

今回、事務局よりしっかり説明を頂いたが、限られた会議時間のため、できるだけ説明時間を短くし、議論する時間を多くとって頂くことはできないか。

（事務局）

できるだけ早く資料配布できるように、事務局としても取り組んでいけるようにしたい。

（事務局）施策提案用紙については、提案内容を5/15 までに記入し、ファックスをお願いします。

#### 8. 閉会